

# 刈谷市 歴史 博物館 NEWS

Kariya city Museum of History NEWS

## CONTENTS

Next Exhibition [次回展示] -----	1
Collection [収蔵品紹介] -----	2
Report & Column [報告 & コラム] -----	3
Information [ご案内] -----	4

## NEXT Exhibition 次回展示

### || 「徳川家康の遺産

—徳川美術館所蔵品で綴る—」

開催日 2020年10月3日(土)～11月15日(日)

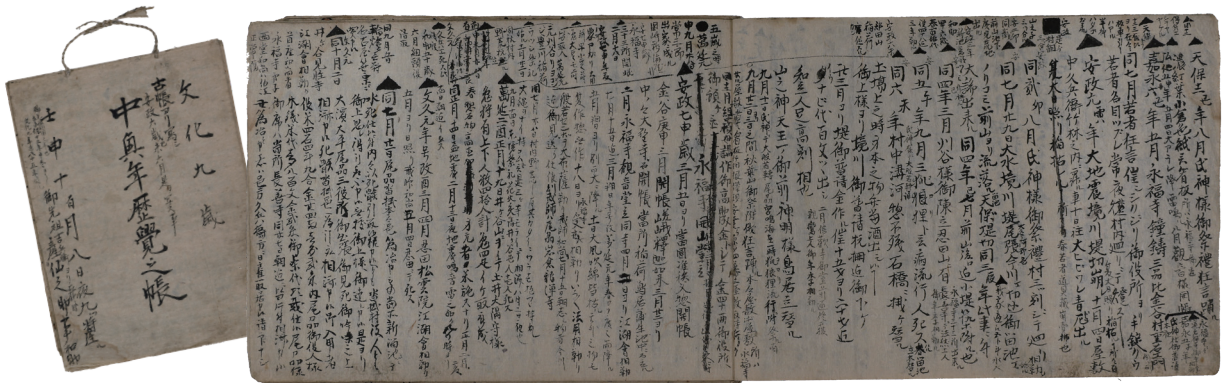
江戸幕府を開いた徳川家康は、初代刈谷藩主となった水野勝成の従兄にあたり、刈谷とも所縁のある人物です。本展では、「駿府御分物(すんぷおわけもの)」と呼ばれる家康ゆかりの遺産を中心に刀剣類や甲冑・茶道具等、徳川美術館所蔵品から選りすぐりの作品を展示します。あわせて、徳川美術館所蔵の水野家関係の資料も展示し、家康と水野家との関係を紹介します。どうぞご期待ください。

※記載内容は予告なく変更することがあります。



熊毛植黒糸威具足 徳川家康着用 (徳川美術館蔵)

幕末・明治の西境村周辺と花火 – 西境村役人・近藤和助の記録から –



中興年歴覚之帳（刈谷市歴史博物館蔵）

「中興年歴覚之帳」は、泉正寺（刈谷市東境町）が実家で資料収集家・郷土史家でもあった故・佐藤峻吉氏から刈谷市郷土資料館に寄贈（現在、歴史博物館に移管）された史料で、幕末から明治にかけて西境村の村役人を勤めた近藤和助が書き残した記録です。この帳面には、西境村や周辺の村々で起こった身近なできごと、和助の個人的な事柄から、公武の往来に関することなどの政治的なできごとに至るまで多様な記事が箇条書きで載せられています。

今回は、この中から当時の祭礼で花火を興行していたことがわかる記事を紹介します。

この帳面には、明治に入ってから計7回、花火の記事がみられます。東三河は手筒花火発祥の地とされていますが、この「覚之帳」にも祭礼での花火興行の記事があり、西三河や境川を越えた尾張にも花火文化が広まってきている様子がうかがえます。

▲（中略）同（明治2年9月）廿三日永福寺秋葉山御祭礼花火アリ

とみえ、永福寺（西境町）寺内に勧請されている秋葉山（＝秋葉社）への奉納として花火を開催したことがわかります。秋葉社の祭神は火之迦具土大神（ヒノカグツチノオオカミ）で、火防の神様であり、祭礼でも火を用いた花火が行われたのだと考えられます。

他にも、明治5年（1872）2月24日に二村峠の曹洞宗聖應禅寺の飛地境内（豊明市）にある地藏堂で千百年を祝う大花火が催され大施餓鬼会を勤めたことや、明治6年になって初めて野田八幡宮で花

火祭礼を行ったことなどもわかります。

さらに、

▲同（明治）六歳西旧九月廿三日秋葉山、祭礼手筒花火願イ済

とあって、「手筒花火」の使用を願っていたことがわかります。「手筒花火」は東三河や遠江で多く用いられますが、この頃は西三河の祭礼でも用いられたことが確認できるのです。

また、和助の記録には1件だけ江戸時代の花火祭礼の記事が存在します。

万延元九月十四日東境ノ祭礼花火矢請伊ヶ谷邑人壱人死ス

ここには、東境村の祭礼で催された花火によって死者が出たことが記されています。丹村照明氏の聞き書きによれば、佐藤峻吉の祖母まつさん（泉正寺の分家・松代）が偶然居合わせて見た話に一致するそうです。「流星」という花火が予定の高さまで打ちあがらず、火の矢となって群衆の中に落ち、頭に直撃したといいます。花火は、観客の目を楽しませる一方で、失敗すれば悲惨な結果を生むこともある、危険をはらんだ祭礼であったことがうかがえます。

近藤和助が記した「中興年歴覚之帳」は、幕末から明治の西境村周辺（現在の刈谷市北部）において、祭礼で花火を興行していたことを教えてくれます。そこには、花火を通じて火防のために秋葉山を仰ぐ地域の信仰の在り方が示されているのです。

（当館学芸員 山下智也）

【参考文献】

佐藤峻吉「西境村絵図と和助覚之帳」（『西境の昔話』私家版、1977年）

丹村照明「西境村「近藤和助覚之帳」(一)～(六)」

（刈谷市郷土文化研究会編『郷土研究誌 かりや』第18～23号、1997～2002年）

## REPORT 報告

企画展「刈谷の近代化と豊田佐吉・喜一郎  
—準備は出来たカリヤは邁進します—」

2019年12月14日(土)～2020年2月9日(月)

本展では、刈谷の近代化の過程を、トヨタグループの祖である豊田佐吉とその子喜一郎の生涯を追いつながり紹介しました。

株式会社豊田自動織機やトヨタ産業技術記念館などトヨタグループのご協力のもと、さまざまな資料を展示しました。豊田佐吉書簡など本邦初公開の資料も多く、佐吉や喜一郎をより身近に感じていただけたのではないかと思います。

講演会やワークショップなどのイベントでもトヨタグループにご協力いただきました。また、普段はなかなか入ることができない石田退三旧宅にお伺いし、展示室もあわせて見学しました。いずれのイベントも好評で、多くの方に楽しんでいただきました。

拙い展示で汗顔の至りですが、普段あまり歴史博物館に来られない方に多く来ていただけたと思います。ありがとうございました。

(当館学芸員 五十嵐正也)



講演会「トヨタグループはじまり物語」



関連イベント「特製ベーゴマを作ろう！」

## COLUMN コラム

## 收藏品よもやま話

のきひらがわら  
刈谷城出土の軒平瓦から

刈谷城出土軒平瓦（刈谷市歴史博物館蔵）

今回は刈谷城を発掘した際に出土した軒平瓦について紹介します。

刈谷城は平成21～23、25・26・28年に発掘調査を行い、平成25年度(2013)に発掘調査をした本丸の瓦だまりから大量の瓦が出土しています。その中からなんと…！駿府城や東福門院下屋敷すんぶ とうふくもんいんしもやしき（二代将軍徳川秀忠の娘・和子まさこが住んだ屋敷）といった徳川家関連の遺跡でしか出土しない軒平瓦が1点見つかりました。他の瓦との土の違いなどから搬入品であることは間違いのないのですが、どのような経緯で刈谷に運ばれてきたのかは不明です。今後はこの瓦についてさらに調査を進めていきたいと思ひます。

(当館学芸員 河野あすか)



# INFORMATION ご案内

## 企画展スケジュール

秋季
 2020年  
 10月3日(土)～11月15日(日)

**徳川家康の遺産**  
—徳川美術館所蔵品で綴る—

観覧料 有料

冬季
 2021年  
 1月16日(土)～2月14日(日)

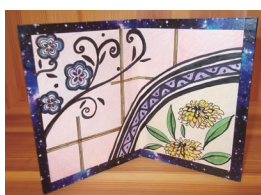
**収蔵品展**



観覧料 無料

## お知らせ

### 簡単工作



土日祝日に手軽な体験工作で楽しく歴史に触れることができます。

◀ 過去開催の「オリジナルミニ屏風を作ろう」の作品

### 販売物

- ◎ 「初代刈谷藩主水野勝成展」図録
- ◎ 中条遺跡発掘調査報告書 1～4巻
- ◎ DVD 刈谷偉人伝 1～6巻
- ◎ 博物館オリジナルグッズ など



▲ 当館オリジナルのクリアファイルができました!

※ 歴史博物館受付にて販売しております。

### Twitter はじめました



公式 Twitter のアカウントができました。展示やイベントの情報など伝えます。

※ 記載内容等は変更することがあります。詳細・最新情報は当館ホームページをご確認ください。

## カレンダー

10	日	月	火	水	木	金	土	11	日	月	火	水	木	金	土
						1	2	3	1	2	3	4	5	6	7
4	5	6	7	8	9	10		8	9	10	11	12	13	14	
11	12	13	14	15	16	17		15	16	17	18	19	20	21	
18	19	20	21	22	23	24		22	23	24	25	26	27	28	
25	26	27	28	29	30	31		29	30						

2021

1	日	月	火	水	木	金	土
						1	2
3	4	5	6	7	8	9	
10	11	12	13	14	15	16	
17	18	19	20	21	22	23	
24	25	26	27	3	4	5	
31							

- 徳川家康の遺産 —徳川美術館所蔵品で綴る—
- 収蔵品展
- 休館日

## 利用案内

開館時間：午前9時～午後5時  
 観覧料：歴史ひろば・お祭りひろば…無料  
 企画展示室…企画展ごとに異なります

## 交通案内

- 鉄道** JR 東海道本線 逢妻駅 から徒歩約15分  
 名鉄三河線 刈谷市駅 から徒歩約15分
- バス** 刈谷市公共施設連絡バス「かりまる」  
 東刈谷線・逢妻線  
 「刈谷市体育館」下車 徒歩約3分
- お車** 伊勢湾岸自動車道  
 名古屋南 IC または豊田南 IC から  
 約20分

刈谷市歴史博物館 NEWS とは

編集・発行

企画展や文化財を中心に、歴史について考えるきっかけづくりとして発行する機関紙です。展示だけでは伝えきれないことや、日々の調査研究から見てきたことを、本紙を通じて発信しています。

## 刈谷市歴史博物館

KARIYA city Museum of History  
 〒448-0838 愛知県刈谷市逢妻町4丁目25番地1  
 TEL.0566-63-6100 FAX.0566-63-6108  
 URL : <https://www.city.kariya.lg.jp/rekihaku/>



▲ 当館ホームページへ

※ QR コードはデンソーウェブの登録商標です。